

特3

592



六六本

會書

世界都路

亞細亞洲

022080-001-5

特31-592

世界都路 卷2-7

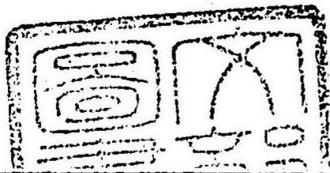
坂名垣 魯文/著

M5

ADA-0426



時392



さきーが支那元の

蒙古の種馬を
割居に土地を
久しに其領分を
○西比利亞
○西比利亞
○西比利亞

亜細亞之續

西比利亞より。亜細亞

北部を押し廣く集

め稱する總名の境に

限る。悉く。魯西亞

世見下各

卷二

一

代小至りと太祖の
子求亦の併吞する
所とあり二百五十
餘年其支配を受た
り一が百五十六年
前より全國魯西亞
の領分小歸したる
其始め魯西亞本部
より流罪人を遷る
所ありしは魯人

り屬する大地なるを
西より烏拉の山脈綫
隔てる隣る歐羅巴
魯の本國より連りて
北より北極海迄と南



の子孫も間々あり
東部の地多く獸類
と産し土人コンジ
ールと号けし鹿の
種類もて角甚だ大

る裏海土耳其斯
坦家古に界し東南
を。海州海と日の本に
海小對し堪察加
半嶋より又えんが

以かると扱一電車
 と率よめ使役も
 と常と此府中
 魯西亞帝より軍用
 の為毛織製造の場
 所と建て金銀の鑄
 造所とも建り西
 比利亞德波爾斯科
 といへる都府の
 革及び種々の製造

古利倍の跨る
 墨士領峽を直く
 亞米利加洲を連
 たる長さ二千五百余
 里南北七百三十里

所あり

西北利亞東西府

○德波爾斯科

西部の惣称あり

て各府名と同ト

くを但し西部中

の首府あり一人口

二千寺院

○多木斯科

德波爾斯科より

面積の九十万五千六百
 方里あり大略支那の
 領分より倍り方らば
 歐あの人全たよりん大
 なる。尚そは半を

義爾古德斯科
 達其の中間の都
 府あり兵學校あり
 貿易繁盛と人
 一万余人
 ○義爾古德斯科
 此地ハ東府ハ属
 一別名府名又同
 ト東西兩部の首
 府ハ一て全国中

一里あり三個を充た
 全地ハ平均算ハ
 後ハ二百八十方
 一里あり三個を充た
 全地ハ平均算ハ
 後ハ二百八十方
 一里あり三個を充た
 全地ハ平均算ハ
 後ハ二百八十方



寂も繁昌の地
 人口一万余
 寺院三十三

過ぎば土人の多ク漁
 業ヲ業トシ
 角長キ麻を牧
 雪路リ花車を
 牽せり其肉を食

○亞古德斯科

國內貿易第一の

場所あり東西兩

部の中央に在り

○荷哥總斯科

北蝦夷と堪察加

の間の海灣に在

り

○尼歌拉斯科府

黑龍河アルムの口

ひそく皮を剥衣

小代る者もある。僻遠

地方は又彼地都府

を介して冬月を土を

穿ちて穴を掘りて井

化小を造りて愚ある。性小

那を著きり地勢

東南の山嶺

列りてその間を

豊多る。田畑の最

要地とそ

○彼得羅波爾斯科

堪察加島の都府

小して東岸にあり

り魯西亞東海兵

備の要地小して

炮臺屯兵あり
 西部の西南裏海スカ
 シヤン及び亞拉湖
 の近傍ハ一般ハ廣
 漠の原野ホシテ樹
 木と生ぜど川流と
 少く耕作もべから
 ざるの地多一之を
 甲ルシ区の沙漠と
 名づく土人遊牧と

多し。又中央より西
 水。多し。見に廣死
 砂原の千里此の
 跨り。眼り。知。ま。ぬ
 散。れ。流。き。鳥。海。河

業として各部の首
 長之を領してホだ
 魯西亞政府の支配



葉。屋。塞。河。勃。拿。の。大
 河。南。より。北。冰。海。に
 首。流。き。冬。に。山。頂。に
 大。雪。ふ。本。樵。の。跡。を
 埋。れ。ぬ。徒。ら。覆。る

を受ざる者あり其
 中或ハ盗賊を業
 とシ旅人と劫掠
 或ハ勾引して之
 賣奴とハ近隣ハ
 鬻ぐ者あり

○印度ハ大別
 て東西二部ハ分
 又全地を二部ハ別
 ちて前印度後印度

とモ即ち支那ハ隣
 りて東部の海中ハ
 突出たる地方を後



小迷子長母之小反
 夏の日を暑く烈
 一 維維 東西
 區別義爾古德斯
 科德波尔斯科

おあト名は首府
 衛王兵士と沖津
 白波風を防備
 知事より未解多
 本斯科亞古德斯科

印度と号し西部の大陸と前印度又天竺と号く

後印度各国

○安南 全国二万三千五百方里人口六百万

首府フエ 人口五百万

○暹羅 全国三万六千九百四十方里

全 人口三百余万内十一支那入

首府曼谷 人口四十万

○老撾 全国二万二千方里人口五百万



南部馬刺加英領
首府新嘉坡
○緬甸 内地四万四千六百方里人口八百万

尼歌拉那科の佐府

とを介し東の端に堪

嘉嘉都府に彼得羅

波爾那科魯國兵備

の要地とて其地を以て

兵急を以て冠し解交

目を布にさるる

亞細亞の南部印度

地を以て前及小別つ炎

熱の腴膏濃く汗を

首府マンドレー

○英領緬甸ビルマ

首府刺郡

○前印度 表西二十三万
二千二百万里

人口 一億七千八百六十
三万余

全地大略英國の管

轄ふして全く其領

地と称する者十四

万零六百十五方里

余あり

五穀多し草木亦

皆とてよ生育ち

産物多し土地あり

少く世るか石も多し

喜馬拉山の脈を屬ひ

大い江河源を及ぶ

發して幾流を南に

傍ひて海に入る

数許多ありとて也

二部に分れ後印度

前印度の地方は地勢小從ひ之と三箇小區別は北部の地方と山地マウンテンと稱し其二喜馬拉の山脚より南の方中央の平原を元來の温都斯坦と云ふ其三南部の中間小在る高さ地面を徳

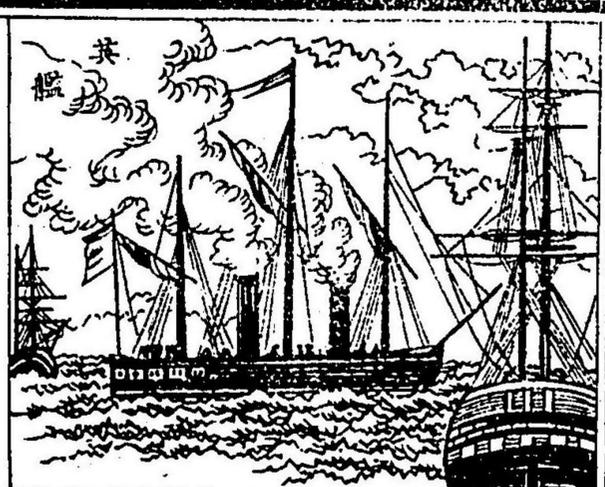
干と名づく
 英國の領地の州縣
 と分ちて皆副鎮臺
 と置と之と支配せ
 しむ其總督の甲谷
 他府小在て許多の
 議員と俱小全國の
 政務を議定たり
 温德斯坦の地方の
 往時より久しく莫

小獨立國の卷れあり。
 安南と一名交趾とて。
 支那との近き小隣り。
 北と東京南方とを。
 本島浦寨と号けたり。

卧爾王の所領小志
 て歴代都せし慶か
 り一が後漸く小衰
 へて六十餘年前小
 至り部下分裂し馬
 刺他の酋長獨立し
 王と稱せより莫
 卧の勢以縮ま
 振の馬刺他の又
 近世数々英國と兵

徳と孤あるも隣あり。
 文華の國小交のね。
 朱氏の皇子びり道中。
 凡俗支那の往古をま
 福と威と官人を。

と構まト終つ小敗績せきて
現いま今いまの其版圖大略たいりやく
英えい國こく小歸かへせり国民こくたみ
又莫卧尔の舊領と
回復かふくさんさんと名なと一
と乱らんと起おこること数かず
次つぎあり一いつが千八百
五十七年土兵大い
小蜂起こほう一いつと英と戦いくさ
ふると凡二年小及



比故莫卧尔王の都
城みやこ并なら離府りふも之が為ため
小陥おとりたり
印度諸教

世界地理

山やま水みづををるる凡たゞ月のあ
めを賦つる詩うたの巧たくまありて
人材ひとざいをを采あるる試あとありて
あり。文ぶんの林はやしふか入いつつ盤ばん
を河がつめ雪ゆきを積つねを

日ひ小次つぎく島しまの臨あみみ子こび
の憲けん小他た事じももあり
王城府衛おうじょうゑいの宮殿きやうてん伽が
藍あいふふ綿わた小造つくりありあり南なんふ
沃野わくやつつありあり潤うる倉くら

卷二

○婆羅門教マブラ

此教宗釋迦の仏也

教の先ツ千餘年

前より盛ふ行ひ

主神三昧

○第一ブ라마

造物主の神

○第二ウイスニユイ

回復の神

○第三シツ

大河の枝川に沿て昌

氣長府是佛の東西の

屬地あり大洋の街の

船泊り於をある港

あり又河上の暹羅の

破滅の邪神

此他附屬の神仏教

と知らる國民空理

と信ト彼神仏を崇

尊の餘り其身体を

痛め或は命を断或

の我子を犠牲と

現世未來の冥福と

禱る者あり近來英

國政府より告令と

湄南河ある口え小盛

都の曼谷港の水は

深く大洋船を始と

了赤道地下の智と

とそ岸より水は張る



以。家。居。を。風。の。吹。ぬ。ま。
 や。人。も。右。に。肩。肌。を。
 脱。ぎ。初。歩。も。跣。足。を。
 風。似。卑。く。暖。く。も。
 前。を。歩。く。剃。落。人。

出。一。是。等。の。舊。弊。と
 禁。む。と。金。固。陋。小。深。

り。て。之。を。改。む。こ
 と。と。欲。せ。む。嘆。む。べ

○釋迦佛教

後。印。度。地。方。及。び
 支。那。西。藏。日。本。小
 至。り。前。印。度。の。僅
 小。錫。蘭。嶋。小。盛。ん

後。婆。の。あ。お。り。し。此
 地。に。象。の。印。度。中。殊。小
 稀。なる。産。ふ。く。形。ら
 大。き。く。骨。太。く。諸。物
 の。運。び。致。し。用。ひ。く

ある而已却て本
地小行もむ

○回教
マホメット宗
人氏四種

○第一 婆羅門
僧侶

○第二 刹帝利
武家

○第三 吠舍
良民

○第四 戌達羅
農民

四種の中一二を貴
重と三四と卑賤と

便利多しとぞ。此も近

以歐西の教化を以て

交り親しく改め

猶又向ふを以り及の

境の尤極む内地行

の部族あり。主人の首

長は其妻と此を以て

順するを以て申ふ。南

邊羅水の部の緬甸

亦も國民の并化



互ひに相嫁娶こと
を得む若此區別を
犯す時ハ嚴き刑に
處せらる且貴族ハ

平人と交るあり
 印度人の古より数
 々他國の爲に侵さ
 其支配を受て服
 従ふと魚古來の教
 法風俗と固守こと
 篤き故に之と變
 革する無きと約し
 而る後其管轄を歸
 するを常とせ此地

殊き是れ秋體の中ふ
 點星は飾るを傳と
 才の業ふまを擧う
 て兒安をる。南の方
 馬利系も英吉利領の

上古より人民繁殖
 一世界中最も早く
 開けし地あり然共
 其地數多の邦國と
 區別て各自立し兵
 かと合しと戦ふ能
 ぞ故に統一の大
 國と爲せし非ぞ
 其後四教の宗徒兵
 勢を振ひ西部次第

開拓地海より
 山角島の新嘉坡
 の首府こそは貿易
 要な港あり。緬甸
 猛き國柄と四隣

其侵略と被り終
 小徳干と畧して國
 と建て其政令兇暴
 と極めて戦ひ絶ど
 後又蒙古の侵掠さ
 是就中四百七十六
 年前韃靼地方より
 帖木兒大兵を卒し
 て攻入り首府聶離
 と陥入と居民十万人

振ふ勢ひも英吉利
 國中拍うき今
 三分の二を保ち伊犁
 角地河乃傍ある曼
 陀禮府のそむ外

と麩殺みせしと云
 帖木兒其本都の還
 りし後百余年の間
 小く安きを得た
 ら小復三百四拾七
 年前帖木兒の親屬

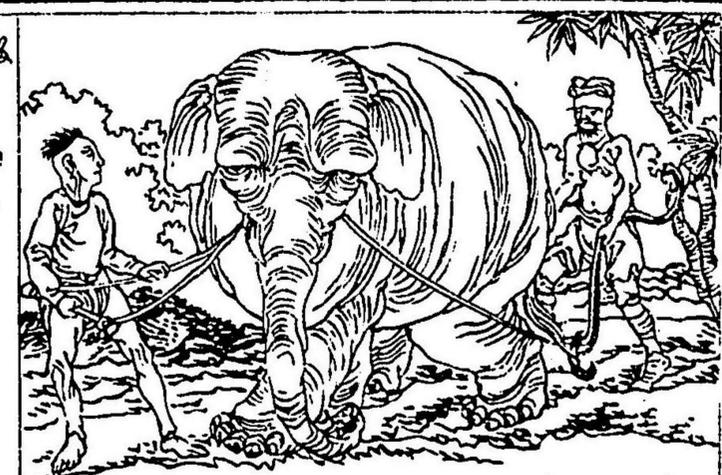


印度王族

鄙のそ多く風俗は
 純く純き心より割き
 て与へ英領の孟加
 拉灣小元を傍ひく
 阿喇哈皮末手形勢

一、プル王韃韃地
 方より起り大兵を
 將おて前印度の攻
 入る再びデルハイ
 府を階と都城を此
 地決定め終る国内
 を併吞を其嗣子に
 ユマシコン王温都
 斯坦の全地を略し
 大莫卧亦国を立り

倫中リウチュウ。大府ダイフの刺郡シケン
 高帝カウダイ好カウき港カウあり。
 海唇カイレン。安院アンイン。蔓仁マンニン
 古把コバ。留寺リウジの小路コウジあり。
 是コレを限ケンりの境カウあり。



今を去ル二百六十
 八年前あり其嗣子
 天阿克バル王兵力

其印シイン。度地ドチの北キタの方喜ホウキ
 馬拉山マラサンの峯ミネはハきキ。無拉ムラ
 比亞海ヒアウカイと西セイ。小受コウ。又マタ。東トウ。孟メイ
 加拉海灣カラカイワンと号カウ。了リウ。全ゼン
 地チ。大ダイ。照シウ。英吉利國エイキリクの支シ

強盛にして巨大の版圖を擡め次々數代の國王皆權力を擅るを就中ヲランセソフ王の如き徳を併吞し印度の全部大畧を歸し奢侈を極め悪行を擅るせしより後内亂起り州郡獨立した

配するその領分を稱す
 孟加拉
 西小州
 馮徐部
 鳥納
 中央州
 孟買
 馬塔喇
 板
 領地
 分
 鎮
 産

其王政小屬を此時小當り比耳西亞の兵大舉して国内を掠め十六億六千六百万弗の貨物を奪ひ去しこと有り首府アルハイも亦數々亞加業坦の爲に陥らば國勢益衰弱莫卧尔王助と英國

の總督首府は甲他
 そは外に葉克什米爾
 尼泊爾不丹諸國あり
 小なる者數あり
 獨立頭領の處なき者

小びひて總小其危
 難と危と終よ国と
 英国よ委せて其資
 給と受今小於てい
 空しく虚名の王号
 と称する而已
 ○比耳西亜又伊蘭
 と名く地方表面七
 万五千五百六十方
 里小して人口大九

のしある甲斐也。あ
 るに英より傳はせり。中
 地の古蹟聳雜い西小
 水と統傳部の界小在
 くるその昔莫外爾王



千二三百方あり氣
 候の地方小因て大
 ひ小異り裡海カスピ

の都せし名なるまじき地
 も衰へて兵火の爲り
 残ある。宮殿及び國主
 の墓の印も小見あぐれ
 雲小塔身之と照らる。

の西南の寒冷より
て中央より南方の
地の暑氣堪がたし
此地の空氣の清淨
小して且乾燥あり
か故に人死て其
屍敢て腐敗ことあ
る産物藥草珠繒帛
金銀線の織物等の
此国の名産あり

日影醫手暇あり
白麻印交地の神
浮屠家の揺りを事
く。實理を惑ふ國
氏の信むる教教を
あり。

又良馬と産むる殊
小他邦より勝り國人
多かり騎馬の術小
長也
國王と尊稱して沙
と云ふ其下中大に
シールと号する高
官あり軍事及び外
國交際等の諸務を
管領も往時に其版

中ふに別あり錫を
釋迦徒の聖地を
浮屠の教をその源
きふ溺れ人心の知覺
を乞く斯くあり

圖盛大あり一ツ突
 世の争乱ゆ国勢衰
 へて各地獨立国と
 ありて其支配小歸
 せも政令り君主專



比耳社の名なき古皇
 あり。印度境なく西の
 方地野南の海をより。
 一殺修く中央より次第
 にさく連つて沙原

治ホ一て各州皆国
 王の親屬を以て鎮
 臺とせ然きども其
 政令公平からむ官
 吏恣ほふ私利を
 營者多し
 人種り土人の外都
 魯機蒙古韃靼亞
 美尼亞及び亞拉比
 亞人等の子孫あり

恙姓廣く見涉
 以果り夜のそむ西時
 暑のそむと。椰櫛
 椰のそむ他を。椰木を
 くの流あく人の性



多クハ數種と混
トテ純一あらざん
品ハ氣格高く風俗

来り稀あり。少く
裏海の傍より。西部へ
けり。山々の連なり。身
谿間ハ草木繁なり。く
典之鏡の土地柄多し。

土耳其ハ似て一般
小回教を奉ぜ故ハ
一男數婦と娶ると
常と異国民一般ハ
禮式と重んじ應對
射裁と飾ると他
國ハ稀あり然と
も亦固陋ありて殘
忍の風習を脱せざ
且華美と好む衣服

國民ハ耕作業に巧み
王九あり。分つ王國あり。
威權よりおそろし。
獨立國もあり。如首
府第希。茶葉の王城あり。

の如きハ男女共金
銀珠玉と鏤め裝飾
こと甚し殊小國王
の衣冠ハ至りてハ
寂も人目と眩耀、
せり其釧環の如き
左右大ハある金剛
石と鏤め其價と算
計ハ二百八十四万
弗ハ至ると云ふ其

次く旧都の義新巴
恒仙泥里由土の河
奇なる構への橋を
け。人々の居ふ建つ
福庭園を造築の

他の修飾准て知る
べし
都下の士民ハ氣象
温和ハして文學著
述と好み且詩學ハ



民野

遠く京より油繪の
巧を盡す如くあり。純
あきやん近きあり見
きらやん近きあり見
皆果て見若く礼

長き者多し故に
比耳西語の近国
小傳へて之を講習
ると猶佛蘭西語の
歐洲に於るが如し
比耳西歴世王
○居魯士王
上候乾庇西の子
全國を統一して
四隣を併せ巴比

き了代を殖る修
修理を加ぬ意旨の
毒りの何時の期あむ
比耳西亞と印度兩
境の間少數部の

倫と滅し其版圖
東ハ印度河に接
西ハ黒海地中
海に濱し猶亞非
利加の北部を蚕
食し
○大流士王
居魯士王の親屬
あり全國を二十
列とあし鎮臺と

為る亞加業坦皮路
直坦域内分ち頭領
の支配を交する風俗
帝狼の心して
勇める意欲土身其

置て守らしむ勢
ひ盛んあつ小乗
ドと歐羅巴を併
吞せんとい大兵



斯坦の亜和業の南
接ま一大部。宜皇烈
く耕し。此業に頼る
便なり。西も但く
く土瘠く。沙多
多

と將て他太尼里
と渡り希臘と数
回會戰軍利あり
きして旋る

○澤耳士王

父の志を継ぎ大
軍と發して海陸
等しく歐羅巴を
侵し又希臘の爲
小破らして和と

東南の山嶽と
うら後身へ二流の大
撲裁て。末も亞拉の
湖。小注ぐ。まうりに
他。河の流。此多。凡

講む其後國勢衰
 ふるみ及び歴山
 王の滅さるる本
 土尽く歴山王の
 版圖小歸を居魯
 士より二百三十
 年小して七ふ其
 後數百年間争乱
 止まぬ近三百八
 年前小至り都魯

形も域も布加利の
 都府の豊の土地して
 人氏多く隣に能
 來好く平常に用也
 る駱駝三千餘貨物

機の属「沙馬何美」
 と稱る者興り全
 國を統一して獨
 立とあり國勢を
 恢復を之と比耳



運送帳了き。市場
 少人を賣買の契き
 習ひを疎すき。徳
 帖本史王の都城に
 名好著き。沙曠良

西亜新朝の祖と
稱を其孫アバ
一世位小即く小
及び更よ兵がを
盛んよ其版圖
東ハ印度河より
西の方地革里河
小接一盡之と領
せり然らよ其嗣
王皆暗弱して国

府浩軍の府城を
莫外尔を。印度の地
に拜きたる。朱武留王
の古路と。如西部の紀
法と強國の解風あり

勢振とせ邦土分
裂とあり近來魯
西亞の為小侵さ
も現今の形勢よ
至きり
○亞加業垣の部内
ハ三万七千七百八
十方里小して人口
五百十五万あり往
時ハ一政府あり

今ハ汗と号く
る酋長の内化よ暴き
威を振ひ。十四方余に
部下あり。騎馬七槍
の隊を將き。操心を常

今現今の分裂也然
 色ども其首たる者
 猶三あり即ち「希
 利」カンダル「希拉
 等」あり氣候暖熱く沙
 漠ありと雪山の間
 小の豊饒ある土地
 多く就中加布利の
 樞要の都府ありと
 人口六万あり又カ

沙漠や小石踏ふ也
 まくして原野の中り
 喜留擬須と号する
 土地の人種は都魯機
 とて暴虐の行ひの



景を庭より

園・民と野の

ンダル府の住時繁
 昌の地ありしか今
 は衰へて盛らむ希

を事として仁義小
 及く野蕃あり
 亜細亞土耳其其を歐
 羅巴土耳其其を亞
 領地として比耳西亜の

拉府ハ比耳西亞の
境ハ近く部内西方
第一の貿易場ハ
テ人口四万五千
○皮路直垣の部内
ハ二万六千八百
里ハ人口大九
四十万あり其土地
原野と峻峻き處の

と多く風俗兇暴
東部の獨立の頭領
ありて其都府を基
拉と云此國比耳西
亞と水一國あり後
自立して二國と
又亞加業垣と合
して一國とあり
グ相睦しからざ
て各その主と立つ

西界して黒海
及び地中海右の海
實出く。南の方ハ亞拉
比亞と亞非理系海
うら對し境内山岳連

多し。南ハ沙地の
五穀產物不足あり。
四部ハから一ハ列ハ
小亞細亞叙利亞亞爾



養尼亞米所波大達匪
 も悉く土耳其政府に
 附属せり。全國二百三
 十府。その中大馬士革
 とて名ある都の町續

隊と結ぶの商個往
 來の地ゆいと貿易
 稍く盛んなり西
 部の地の野民多し
 ○土耳其斯又獨立
 鞞靴インテンタル
 一と號し數箇の小
 国の區分各皆君主
 あり其中の首立者
 五国あり所謂布加

千種百本舗店ふ
 る。づ。礮南ぐ好。昌の
 古き史も著れ。く
 世界よるるき。勝地を
 くれ。り。北の亞喇波を

利。加非利。斯且。浩罕。罷。革。ク。ン。ス。一。等。之。

○布加利府

地方國の南部より其府人口七万府中少用ゆる駱駝三千餘頭小及び内地の貿易甚ど多く府内奴隸を賣買するの市場あり且回教

又娘了き大府あり。抑西洋法を以て倉庫寄依の教祖あり。耶蘇降誕の當國の不利斯底尼の都あり。

盛ん少行とと三百六十の箇の寺院あり

○沙曠良府

往時帖木兒の都せ一處ふ一と府内繁盛人口十五万あり其後教度の兵乱を経て漸衰微一今の一万は過ぎざ

さしゆ名なるも耶路撒冷猶太國王の白都。數千年來震革ん。米枯盛衰地を智也。耶蘇の墳墓

○浩罕府

国内東部貿易第一の場所にして住時莫卧尔国と印度小國とに接するべし王の古卿あり西部紀法の地方に昔「カルス」の強國此部内は在て武威と專擅ふせり都府

も同名小し人口一万二千あり



○西北亞拉湖の近傍より魯西亞の領地を跨り一般に

あり。寺院あり。當町一般國民の宗廟あり。そのまは回教の靈壇あり。宇金銀の飾りきりめく仕務。眼目を驚

る針あり。多し。世の七不思議。當の尾微の。當の。羅の大銅像。巴比倫城の。夢の。臨没。斯耳府

積の原野ありキル
キ匹の地方と号け
各部酋長あり風俗
暴び盜賊を事とせ
○亞細亞土耳其
洲の西隅より狭
き海と隔て、歐洲
土耳其の本國小連
り南の方亞拉比亞
小跨りて亞非理加

洲の接し東北の黒
海に傍て魯西亞と
界を地方十一万二
千四百四十方里小



より對岸地革里斯
河の傍より堀出する
古器遺物今英佛
の本部ある博物館
小花めたり

亞拉比亞國の南方叙
利亞よりなるびそは
東由非刺底河と比
耳西亞海、南の方
亞拉比亞海、西紅の海

人口千六百万
 餘有之皆土耳其政
 府の版圖に屬ふ其
 區分れる各地に鎮
 臺を置き許多の候
 伯を委任して之を管
 轄せしむ国内大小
 の府一百三十あり
 其人口土地の廣大
 小比較せば少から

境にさし由に廣き
 國あり。赤道直下
 の大熱地沙漠田地
 あり。海の岸を
 耕他をいともむる

とせば一其中士麥
 拿大馬士革の西府
 の如き人口十萬
 以上過ぐと雖も其他
 の五方より及ぶ者九
 ケ所二万より至る者
 二十六ヶ所より過ぐ
 ば教法は一般に回
 教を奉じと雖も人
 種の區別より

のあり。果し
 たらぬ。沙原の様
 者。隊を。駱駝
 小舟。路。磁
 石。針。的。家。

耶蘇猶太及び種々の異教を奉ずる者有り此国上古より著高き地方より三千年前より世に知られたる王国ありしが古來數々の兵亂を経て爾後四百四五十年前より土耳其に併合され

早々と指へく方角を。定る業を大澤を航る例に醫歸たる。土地を大略區別して、黒德斯二を

全国其版圖に屬せり其中叙利亞及び小亞細亞の兩部に在り時埃及の副王に屬せしが三十四年



也門三を阿曼四を納熟獸類多々ある中に馬々世界の二物と。その評判の故を里外より之を著

前土耳其其屬也

○小亞細亞マイネール

の黒海と地中海と

の間にある地方也

トシテ亞那多里亞と

も名づく都府士麥

拿の亞細亞土耳其

第一の府也其質

易繁盛の港あり其

他アイデレ府スク

○「アデン」紅海咽喉の

碇泊場もく英領也

屬も繁花の港あり

阿曼の都府也本斯

甲印度も對して東

タリ「ブリユセ」府

シノーピの港あり

共小繁花の地あり

○叙利亞の地方也

地中海の濱辺より

亞拉比亞も跨り小

亞細亞と埃及との

間もある南北も長

き土地と云ふ海岸

の地方と不利斯底

南紅海にも在り也

地球中極熱帯乃

第一地岩石四方を

うら園も樹木もさ

らりあつても秋

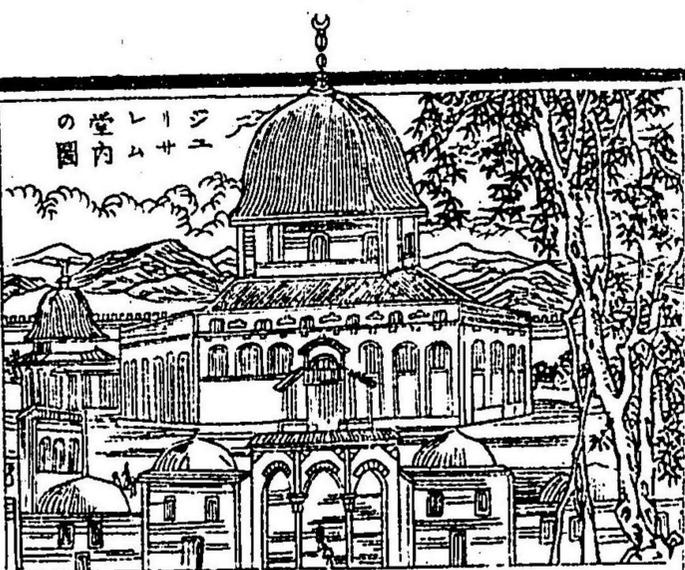
尼と云ふ此地迦南
又ハ神国と號シ猶
太以色列等の古名
あり土人種々の教
法と講せざるものあ
り

○猶太教

○回教

○耶蘇教

等の諸宗あり



○亞爾美尼亞の魯
西亞の甲告俗地方
小接シテ山脈連リ

七男耨路

立此の空揮糞土
互シ此寒温儀され
此府小伏名トシ
地獄と稱トシヤ
の地方納熟蒸野
石

原山嶽の間小草木
生首つ土地ハ亞拉比
亞古來より傳り
風俗の遠る理也
奴の府下の人今

○廿七

東南の方比耳西
 小接するの地方ハ
 更ハ高山多シ其都
 府ト葉西倫ト云人
 口三萬四千内地の
 貿易盛んあり
 ○米所波大逆亞ハ
 亞ハ美尼亞の山地
 より比耳比亞海灣
 又達する地あり

崇峻の回教の基
 在るを云く聖地
 舊路をなす山あり
 支那海及び印度

上古種々の邦國あり
 りて世界繁盛の地
 方ありと云ふ
 因て云此地ハ二
 ツの大河あり一
 と由非刺底ト云ハ
 以一と地革里斯
 と云ふ共ハ東南
 小流も終ハ相合
 して一ツハあり

海澳大利亞中間に
 数も知れぬ島嶼
 を總て稱之と云
 度法多島と云ハ
 を巫來諸島と号ス

比耳西亞灣に注ぐ太古人民初めて繁殖たるに此河辺ありと云ふ其後大洪水ありて人民多くなりて滅て唯諾威の親屬絶え免る事を得て再び人種蕃殖し現今小あり

るるそれが中なる首嶋大略和名ありて今之陸地と稱し者統計九万八千と三百八十方里

來りいと云ふ蓋し大洪水の有るに大略四千二三百年前より一諾の親屬神の告より前より大洪水のありと知り舟を造り貨財を載て則ち今の亞が羨尼亞の山地

少く人口二千万人小僅是るに今より土地亦道に位なく今候矣熱帯子母の花実ハ四時小絶也



らに。往來も支那の
 海。近き。呂宋。數百
 乃。居る。處を。今。百。せ。名
 つけ。し。れ。り。は。納。め。し。
 稱。する。と。味。の。西。班

小止中きりと云
 傳ふ
 古跡
 ○巴比倫城
 大凡四千年前の
 遺跡を存せり
 ○尼々微城
 三千八百七十餘
 年前の古都也
 今現存其近辺

牙。第。二。世。王。の。名。を
 持。ち。て。其。領。分。の
 故。を。都。府。の。馬
 尼。刺。の。西。の。方。岸。を
 放。き。て。獲。得。諸。島。

ある土中より種々の古物を掘り出せり

○太陽廟

太古尼々微の城中あり今其瓦礫而已と存せり

○巴比倫金像

僅小礫石の古跡と存せり



○亞拉比亞の北叙

利亞の東の由非刺底河及び比耳西亞灣の境一南の亞拉比亞海西の紅

瓜哇の諸島より先
人口多し土地
ゆゑの阿蘭陀領の
一箇として首府を
名づけし伯帶庇亞

鎮甚衛府諸友局
諸院學校その外
市街商社鋪店多
新を並置してある
あり十餘里として中府

海内境ひたる大なる半嶋国ありと雖も
 全く赤道の熱地にして
 一と沙漠連り耕作
 すべきの地あり大
 略歐羅巴洲四分の
 一ありと雖人口六
 百万の過を皆亞拉
 比亞人ありと一般
 小回教を奉む又猶

あり。勅意天率留
 俱る結産の無事
 を慰む下屋友の季
 子緑の葉を季子
 百花の帯に輝燦と。

太教を奉む者多
 一海岸の地方あり
 間々豊饒の地有り
 且繁盛の都府数多
 ありと雖も其内地
 の沙原むりあり
 故此地と旅行する
 者駱駝に駕む隊と
 結び且道路の標的
 小磁石の針をふり

後ぬ眺め我を面白き。
 官道四達馬車肩
 輿り。性来自在の
 三寶坑士里真萬
 丹井裏汶能各府

ふり星を指へて方
角と定めて行くと
大洋と航るが如し
と云り土地の區別
種々の名称あり
○黒德斯トルコ土其
國の西部紅海の
濱辺と云ふ
○也門也門酋長
西南の隅紅海の

香港貿易の盛りを
競ふ澳門は合體も世
少んて巫來由の半島も
さへ向ひ多る大島
や人のこゝれも意匠の

入口の地方を云
○阿曼阿曼頭領
東南の地方を云
○納熱納熱酋長
中央の内地方を云
○ハドラモート
南部の海岸を云
○西奈山西奈山九百丈余
蘇士と「アカバ」の
海灣の中間に有

高きくいふと戦ひよ。
彼は房小和東領也
喘花古魚の隣傍
その他は諸君も結
産を副く衛を



亞拉比亞内地の住
民の平常居処を定
めず水草を逐て他
處に移り住帳幕を
張る其内は眠り坐

獨立の主人も交る處
甲嶼支那と所交の
海洋は越く船の順路
あり。所陸のおある波女
羅の世もか多奴の大嶼と。

食せり人氣あしく
盜賊と為者多し斯
る廣大ある沙原の
生活する人民の時
用缺く可からざる
物の駱駝ふしと一
切の物尽く此獸の
駕して水と草との
ある地と索めて四
方に住居と轉むと

地理書の中は算ふ
きごと主人は暴おし
て開化の途なき裸蠻
西の岸より東南を和
茶の産るその他を獨

云其他此地の馬の
世界無双の馬の
有名あり

○此國の回教基源

の地ハ一と千二百

餘年前開祖摩哈麥

黑德斯の首府麥加

の地ハ生と麥地拿

の地ハ終りより

回教の門徒の靈場

立ち候英の支配を

受る者もあり内地ハ

重山つき深き林の

うち残り猛獸毒蛇の

巢窟少て人の通ぬ心

の第一として巡拜

する者必此地ハ

來り

○東印度諸島の

緊赤道下の位



世界諸

卷二

のこ北の西南より

大小四府の管轄ハ八雜

りたり英業之海峽

嶺ハ西里伯の島

諸小島小群他諸島

炎熱かり草木繁茂
 一産物多し大略和
 蘭の管轄の属一本
 國より凡哇の鎮臺
 と置きた之を支配
 せり然も其北部
 の諸島呂宋の如き
 西班牙の所領の属
 一又葡萄牙領或は
 土候の領地もあり

百餘の島ありも高嶺の
 頂上の峰りて遠くあう
 るま六海に面り數
 星の影をせよとて
 かくあるま。

